

令和4年度 入学試験問題

国語

九州国際大学附属中学校

【注意事項】

- 1 開始合図のチャイムが鳴るまで、この問題用紙の中を見てはいけません。
- 2 開始合図のチャイムが鳴ったら、最初に解答用紙と問題用紙に受験番号・氏名を書きなさい。
- 3 試験時間は50分です。
- 4 解答はすべて、問題の指示にしたがって解答用紙に記入しなさい。
- 5 問題用紙で、印刷がはっきりしないところがあったら、静かに手をあげなさい。
- 6 答案ができあがっても、終了合図のチャイムが鳴るまで静かに着席していなさい。

受験番号				氏名	
------	--	--	--	----	--

□ 次の文章をよく読んで、あとの問いに答えなさい。字数指定のある問題は、句読点なども一字と数えます。なお、まだ習っていない漢字については、読みがなを付けたリ、ひらがなで表記したりしています。

私の娘がお嬢小学校の中学年ぐらいになったときに、ムカツクとかうざいといったたぐいの言葉をよく使うようになりました。そのあたりから、友だちへのまなざしがどうもよくない、友だちをマイナスの面から見るのが多くなり、家族やまわりの人たちへのギスギスした態度が目についてきました。そこで、そうした言葉を使わないようにとアドバイスしてみました。その言葉にはいくつかあって、私はそれらをとりわけ子どもたちにとっての「コミュニケーション阻害語」と名づけて気にかけるようになりました。【中略】

阻害語の代表的なものが、①「ムカツク」と「うざい」という二つの言葉です。

この言葉は、このところ若者を中心にあつという間に定着してしまつた感のある言葉です。「ムカツク」とか「うざい」というのはどういふ言葉かという、自分の中に少しでも不快感が生じたときに、そうした感情をすぐに言語化できる、非常に②ベンリな言語的ツールなのです。

→道具

A、自分にとって少しでも異質だと感じたり、これは苦い感じだなと思つたときに、すぐさま「おれは不快だ」と表現して、異質なものとX折り合おうとする意欲を即座に遮断してしまふ言葉です。しかもそれは他者に対しての攻撃の言葉としても使えます。「おれはこいつが気に入らない、嫌いだ」といふことを根拠もなく感情のままに言えるといふことです。ふつうは「嫌いだ」と言うときには、「こいつが理由で」といふ根拠を添えなければなりません。が、「うざい」の一言で③スンデしまふわけです。自分にとって異質なものに対して端的な拒否をすぐ表明できる、④アンイでベンリな言語的ツールなわけですね。

→何のためらいもなくすぐ

→てっとり早いさま

B 人とのつながりを少しずつ丁寧ていねいに築こうと思つたとき、これらの言葉はなおさら非常に問題をはらんだ言葉になるのです。

→何かをふくみ持った

どんなに身近にいても、他者との関係といふものはいつも百パーセントうまくいくものではありません。問題を構築していく中で、常にいろいろな阻害要因が発生します。他者は自分とは異質なものであるから、当然です。じっくり話せば理解し合えたとしても、すぐには気持ち伝わらないといふこともあります。そうした他者との関係の中にある異質性を、ちよつと我慢して自分の中になじませる努力を最初から放棄ほうきしているわけです。

→やるべきことをやらないでほうっておくこと

つまり「うざい」とか「ムカツク」と口に出したとたんに、これまで私が幸福を築くうえで大切だよと述べてきた、異質性を受け入れた形での親密性、親しさの形成、親しさを作り上げていくという可能性は、ほとんど根こそぎゼロになつてしまふのです。これではコミュニケーション能力が高まっていくなさくありません。

C、流行語になるずっと以前から、「むかつく」とか、「うざったい」といふ言葉はありました。でもあまり日常語として頻繁

同じことが何回も起るさま

に現れるということはありませんでした。なぜかといえは、現在の状況のように、②すぐに「ムカツク」とか「うぜー」と表現することを許すような、場の雰囲気というものがなかったのです。でも今はあります。

「ムカツク」「うざい」が頻繁に使われる以前はどうしていたのでしょうか。私たちの世代でも今の若い人たちと同じように、ムカついたり、うざいという感情を持つことはあったはずですが。でもそれを社会的に表現するには、それだけの理由、相手に対するそういう拒絶を表現してもいいのだという根拠を与える理由がないと言えないという雰囲気があったわけです。

それが今は、④シユカンのな心音を簡単に発露できてしまうほど、社会のルール性がゆるくなってしまうのだと思います。昔は、そんな言葉はきちんとしたY正当性が無い限り、言ってはいけないという暗黙の了解がありました。だから、いくらムカついてもグツと言葉を飲み込んでおくことによって、ある種の耐性がうまく作られていったと思うのです。

D、ここで私の娘の話に戻りますが、こうした言葉を言わなくなってきたから人に対する彼女の⑤タイドがハッキリ変わりました。自分が気に入らない状況やまるごと肯定してはくれない他者に対して③ある程度耐性が出来上がったようなのです。それは単に年齢が上になったからとか、少し大人になったからといった自然成長的な変化ではありません。彼女の内面で確実に何かが変わったのだと思います。

(菅野 仁『友だち幻想』より)

問一 線㉔㉕のカタカナを漢字に直しなさい。ただし、送りがなが必要なものは、適切につけなさい。

問二 〽X・Yの文章中における意味として適切なものを次から一つ選び、それぞれ記号で答えなさい。

X 「折り合おうとする」

ア ゆずりあって解決しようとする

ウ 自分だけ我慢しようとする

Y 「正当性」

ア 特別な事情に当てはまるさま

ウ 時代をこえて当てはまるさま

イ 普通の状態であるさま

エ 理屈や筋が通っているさま

問三

A D にあてはまる言葉を、次からそれぞれ一つずつ選び、記号で答えなさい。
ア だから イ しかし ウ さて エ もっとも オ つまり

問四

—— ① 『ムカツク』と「うざい」という二つの言葉です』とありますが、これらの言葉の特徴を次のように説明しました。
1 5 3 にあてはまる言葉を、文章中からそれぞれ二字で書きぬきなさい。

◎自分が少しでも嫌な思いやいをした時に、相手にすぐに 1 を表明でき、しかも相手に対して 2 の言葉としても使え、二人の関係をただちに 3 してしまうという特徴。

問五

—— ② 「すぐに「ムカツク」とか「うぜー」と表現することを許すような、場の雰囲気」について、次の各問いに答えなさい。
(1) 現在では、なぜこのような雰囲気になっているのですか。「 5 から。」につながるように、文章中から十八字で書きぬきなさい。
(2) 昔は、どのような雰囲気があったのですか。そのことが説明されている一文を文章中からぬき出し、最初の五字を書きなさい。

問六

—— ③ 「ある程度耐性が出来上がった」とありますが、ここでの「耐性」とはどのような性質ですか。「 5 性質。」につながるように、文章中から三十四字でぬき出し、最初の六字を書きなさい。

問七

この文章で筆者は、「コミュニケーション能力」を高めていくために、何を築き上げていく必要があると述べていますか。文章中から十五字で書きぬきなさい。

問八

この文章の論の進め方を説明したものととして、最も適切なものを次から一つ選び、記号で答えなさい。
ア 最初に結論を述べることにより、読者が読みの構えを作った上で読み進められるよう工夫されている。
イ 最初に疑問を投げかけることで、読者の注意をひきつけ、その疑問に答えていく形で論を進めている。
ウ 父と娘、昔と今のように対比して述べていくことにより、筆者の意見を強調しながら話を進めている。
エ 具体例を効果的に用い読者に興味や関心を持たせながら、さらに筆者の意見に説得力も持たせている。

二

次の文章をよく読んで、あとの問いに答えなさい。字数指定のある問題は、句読点なども一字と数えます。なお、まだ習っていない漢字については、読みがなを付けたり、ひらがなで表記したりしています。

ぼくは、九歳きゅうさいの小学生です。今年の夏休みは、いつもとちがって、日ひごろめったに家にいない父と一緒に過いっしょごすことになりました。そして、夏休みも後半になったある日のお話です。

お父さんの仕事が終わると、ぼくらの夏休みは、もはや十日を切っていた。

「よし、宿題は終わった！」お父さんは叫さけんだ。

「やった、遊あそぼうぜ！」ぼくも叫んだ。

①自分のことしか考えられないお父さんの性格は、ぼくにとっては好都合だ。お母さんがここにいれば「次はあなたの宿題の番ね」と言うに違ちがいがないから。もちろん、ぼくの宿題はぜんぜん終わっていない。

とりあえず、ぼくらはまた市営プールにいった。ぼくは監視員かんしいんの目を盗ぬすんで、底せみずまで潜水し、塩素剤えんそざいのタブレットを拾ひろったり、吸すり口くちをつけて、あの吸いこまれるかんじを楽しんだ。お父さんと並んで背泳せいえいぎもした。ぶかぶか浮うかっていると、耳みみのそばで水がゆれる。たぶたぶという水音とみんなの笑い声がまざるのを聞くのが、好きだ。でも残念ながら、視界は灰色だった。黄色い太陽をみられたらいいのに。台風が接近ちきんしていて、空は **A** 曇曇っていた。

あくる日は、ひさしぶりに自転車に乗った。お父さんが、ベランダに放置ほうちされていたお母さんの自転車をみつけたし、修理しゅうりしたのだ。自転車のいいところは、たくさんある。走れること、風と一体いつていになれること、自由に動かせること。

ぼくらは **a** 雑木林ざつぼりんへいき、どこまで手放し運転てんぱんできるか競争し、ブレーキをかけずに坂道さかみちをくだる競争もした。虫とり競争では、ぼくがバツタを二十七匹ひき、お父さんがせみを九匹ひきつかまえ、ぼくが勝った。エアガンで空き缶かんを撃うつ競争は、意外なことに引き分けた。初心者のぼくの命中率と、慣れているはずのお父さんの命中率が、ほぼ同点どうてんだったのは、お父さんいわく「老眼らうがんがはじまって、みえにくいから」だそうで、だけどそんなのは **X** 負け惜おしみだと、ぼくは思った。悔あなごれなかったのは、ゆで卵たまごむき競争だ。ゆで卵の両りょうはじをこつんと割り、割れた部分ぶぶんにくちをつけて息を吹ふくと、一気に殻からがむける。むこう側に、びゆるんと中身なかみが飛びだすのがおもしろい、卵たまごのむきかただ。これは負けたことがない。割る部分を最小限せうじんにし、ちいさめの吹きこみぐちを作るのがコツだ。でも、ぼくは三つとも、お父さんには敵かなわなかった。

一日じゅう、**㉞**小雨がぱらつき、ときどき止んだ。だけど、樹のしたにいと、枝葉が傘代わりになって、ほとんどぬれない。遊んだあとは石に座り、お父さんはビールを、ぼくはファンタグレープを飲んだ。お父さんがこぼしたビールの池には、なめくじが泳いでいた。ビールが好物らしく、ちゅうちゅう吸っていたのが、かわいらしかった。

夜は、ろ過大会をした。アイデアをだしたのは、ぼくだ。以前から興味があったのだけれど、機会（と度胸）がなく、すくなくともお母さんがいたら絶対にできないことのひとつだった。

我が家には、ブリタというメーカーの、ろ過式浄水器がある。プラスチック製の、ポット型で、なかは上下二段にわかれている。上部から水道水を注ぎこみ、真ん中にあるフィルターで、こざれると、下部にはきれいな水ができる仕組みだ。水は、だけど、透明だ。ほんとうに浄水されているのか、見た目にはわからない。ろ過した水と、していない水を、飲み比べたことはあるけれど、味も違いがわからない（ぼくはそれほどグルメじゃなかった）。

ぼくが**㉟**試してみたいのは、たとえば、オレンジジュースだった。オレンジジュースをろ過したら、透明の液体がしたに落ちて、味や匂いはオレンジジュースのままかも知れない。あるいは、まったくの水になるのかも。最悪なのは、色も味も匂いもそのまんま（ろ過なんて、でたらめ）というパターンだ。

話してみると、

「いいね」と、お父さんは目を輝かせ、

「どれどれ」

㊱率先して台所へいき、浄水器をリビングへもってきた。**㊲**テーブルに置き、ぼくらはうやうやしく、フタを開ける。そうして、冷蔵庫をのぞきこむ。オレンジジュースは見当たらない。あるのは、ビールだけだった。

「紅茶でもいれてみようか」ぼくが言うと、

「これでいいんじゃないか」お父さんは缶ビールをとりだして、浄水器に、どぼどぼと注ぎこんだ。

容器の上部に、泡がたつ。**㊳**と、ふくらむ泡は、まるで真夏の雲みたいだ。泡がおさまると、金色の液体になった。あぶくが、

㊴とのぼってくる。長いこと、ぼくらはかじりつくようにして見守った。水よりも、ろ過に時間がかかるのは、期待できる証拠だった。

ぼたん。ぼたん。やがて、水滴が下部の容器に**㊵**垂れはじめた。空っぽの底に、こぼれ落ちたのは、水の色だ。

「おおー」ぼくらは同時に息を飲んだ。

ろ過された液体は、一見すると透明だけれど、量がたまってくると、ほんのわずかに金色がかっている。飲んだら、いったい、どん

な味がするんだらう。そわそわして、足の指がつい動いてしまう。貧乏ゆすりびんぼうをすると、お母さんに注意されることを思い出したけれど、隣ではお父さんも爪先つまさきを動かしていた。③ぼくらはおんなじ気持ちだった。ああ、たまらない。早く味わいたい。と、興奮してきたところで、はたと気がついた。

ビールじゃ、ぼくは飲めないじゃないか！

お父さんしか味見できない液体を注ぐなんて、ぼくもばかだけれど、お父さんだってあまりにYうかつだ。だけど、あきらめたくはない。

「ぼくも飲むよ」宣言すると、

「だな」お父さんは浄水器じよすずいから視線を外さず、さもなんでもないことのように答えた。

ろ過された透明な液体を、二個のグラスに注いだのは、お父さんだった。グラスをぼくにさしだしてくれる。生まれてはじめてのお酒だ。鼻先に近づけると、水のような色をした液体の、匂いはビールだった。というよりも、ビールを飲んだあとのお父さんの匂いというほうが、ぴったりきている。慎重しんちょうに、ひとくち飲む。ひどい味だ。見た目は水みたいなのに、**D**した苦さがあり、こんなものは水とはいえない。もしも、これがビールの味だというならば、ぼくは一生飲まないだらう。

けれども、お父さんは、

「水だ」と、顔をしかめた。

「こんなものはビールとはいえない」舌をだして、そう続ける。

よかった。これはビールじゃないらしい。ぼくはほっとした。夏の大人はみんな、世界一うまい飲み物みたいに、喉のどを鳴らしてビールを飲むから。危うく将来の楽しみが減ってしまうところだった。「まずいな」お父さんは言い、「まずいね」ぼくも言った。④味わいかたは正反対だったけれど、ぼくらは結果、意見をおなじくしたのだった。

(唯野未歩子『はじめてだらけの夏休み』より)

問一 〓 線㉓㉔の漢字について、その読みをひらがなで書きなさい。

問二 〓 X・Yの本文中における意味として適切なものを次から一つ選び、それぞれ記号で答えなさい。

X 「負け惜しみ」

ア 決して弱音をはかないこと イ しつぽをまいてにげること

ウ くやしくて腹を立てること エ すなおに認めず強がること

Y 「うかつだ」

ア せっかちなさま イ うっかりしているさま

ウ がっかりしているさま エ まちがったさま

問三 A s D にあてはまる言葉を次から一つずつ選び、それぞれ記号で答えなさい。

ア いがいが イ きらきら ウ ぐずぐず エ ゆらゆら オ もこもこ

問四 〓 ①「自分のことしか考えられないお父さんの性格」とありますが、この様子について次のように説明しました。 1

2 にあてはまる言葉を指定された字数で、文章中からそれぞれ書きぬきなさい。

◎自分の仕事が終わったことをのみ喜び、息子の 1 (二字) などいっこうに気にかけない様子や、ろ過したビールを飲むことを、息子の年齢など一切気にかげず、 2 (八字) ことのように許してしまう様子のこと。

問五 〓 ②「テーブルに置き、ぼくらはうやうやしく、フタを開ける」とありますが、この時の二人の様子を説明したものととして、最も適切なものを次から一つ選び、記号で答えなさい。

ア これから起こることに期待し、浄水器に敬意をもって、ていねいにふたを開けている様子。

イ ろ過大会という儀式に際し、二人が緊張して手をふるわせながらふたを開けている様子。

ウ どんな結果になるかわくわくしながらも、はやる気持ちを抑えながらふたを開けている様子。

エ いっこくも早く実験を行いたいという気持ちから、すばやくふたを開けている様子。

問六

—— ③ 「ぼくらはおんなじ気持ちだった」とありますが、二人ともどのような気持ちなのですか。「ビールが」という書き出しに続くように、文章中の言葉を使って、六十字以内で答えなさい。

問七

—— ④ 「味わいかたは正反対だったけれど、ぼくらは結果、意見をおなじくしたのだった」とありますが、このときの様子をクラスで考えてみることにしました。次に示す文章は、ある生徒の考えです。 1 ・ 2 について、指定された字数で文章中から書きぬき、 3 ・ 4 については、自分で考えて書きなさい。

「味わいかた」については、「お父さん」が「こんなものはビールとはいえない」と言っているのに対して、「ぼく」は、**1 (十三字)**「**2 (三字)**」と考えているところが、正反対だと思うよ。「意見」については、二人とも「**3 (五字以内)**」思っていると想像できるので、だんだんと「お父さん」のことが **4 (十字以内)** と考えたよ。

問八

この文章の表現の工夫として最も適切なものを次から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 擬態語や擬声語、たとえの表現を使うことで、読者がイメージしやすいように工夫している。
イ 過去のできごとを間にはさむことで、ものがたりにおく行きをもたせるように工夫している。
ウ 短文や会話を多用することで、ゆっくりとものがたりが進んでいくように工夫している。
エ まわりの景色の様子をえがくことで、登場人物の気持ちが想像できるように工夫している。

三 次の問いに答えなさい。

問一 次のことわざと似た意味を持つことわざをア～エから一つずつ選び、それぞれ記号で答えなさい。

- ① 馬の耳に念仏
ア 犬に論語
イ 烏の行水
ウ 狐の嫁入り
エ 虎の尾を踏む
- ② 石の上にも三年
ア 火中の栗を拾う
イ 短気は損気
ウ 雨降って地固まる
エ 待てば海路の日和あり
- ③ 机上の空論
ア 百聞は一見にしかず
イ 他山の石
ウ 絵に描いた餅
エ 宝の持ち腐れ

問二 次の□に同じ漢字を入れると四字熟語ができます。□に入る漢字一字をそれぞれ答えなさい。

- ① 先生の話 □言 □句聞きもらさないように集中して話を聞いた。
- ② 彼女は □利 □欲に負けず、いつも人のことを考えて行動することができる。
- ③ 選手を □材 □所で起用して、試合に勝ち続けている。

問三 次のカタカナの漢字と同じ漢字が使われているものをア～エから一つずつ選び、記号で答えなさい。また、その漢字一字を書きなさい。

- ① 必要な物資を提キヨウする。
ア 効率よく水をキヨウ給する。
イ キヨウ土の歴史を調べる。
ウ 今日の大戦相手はキヨウ敵だ。
エ 彼とはキヨウ通点が多い。
- ② 平安時代のキ族の生活を調べる。
ア この道はせまくてキ険である。
イ 合唱コンクールで指キをした。
ウ キ重な資料を手に入れた。
エ 厳しいキ準を設ける。

③ 公シユウ電話の数が減っている。
ア 水をよく吸シユウする素材だ。

- イ 大勢の観シユウがうめつくしている。
ウ 世界にはさまざまなシユウ教がある。
エ 彼は会社シユウ任した。
- ④ 昨日見た映画のヒ評を調べる。
ア 犬が好きな人のヒ率が高い。
イ ヒ蔵の刀を公開する。
ウ 周囲からヒ判を受ける。
エ うわさをヒ定する。